

# 品川支部

天理教品川支部（豊英分教会内） 発行責任者 栗原薫 編集 支部編集部

平成29年8月1日発行  
〒141-0022  
品川区東五反田1-8-5  
TEL 3442-7075

## 9月

## 九月二十八日から三十日 全教一斉にをいかけテイ

毎年初日の二十八日は全国で、教会長を中心にした路傍講演が行われます。品川支部では五反田駅・大井町駅・西大井駅の三か所で、十時から平服で致しますが、一般の方はチラシを通行の方にお配りしたりして頂いています。

普段、「にをいかけは」と敬遠されている方も、大人数での活動ですので、三駅のお近い場所では是非参加してください。

尚、今年は二十九日も夕方六時から、少人数でも大井町駅ロータリーでをいかけ活動をさせていただきますので、お見掛けされましたらどうぞお声がけして下さい。

### 二十八日路傍講演、場所別担当教会

大井町駅東口  
イトーヨーカ堂横スロープ

都南・豊英・神品川・南泰・呉武・  
本月井・本園

五反田駅東口  
ロータリー

日本橋・櫻京・本品川・成東・日倉  
三ツ木・本大崎・本早川

西大井駅  
ロータリー

本荏・鶴平・本品・大平町・佐東  
水豊田・錦平・本品原

## ☆支部行事のお知らせ

・支部幹事会

九月九日(土)午後六時〜都南にて

・教区ひのきしん

日本橋組です。五日・十七日二日間ありますのでよろしくお願いいたします

・神名流し

一日午前十時から大井町西口ロータリーにて

・在宅センターひのきしん

九月二十九日(金)午前十時〜

・支部例会

九月三十日十一時から

神品川分教会にて行われます(詳細二頁)

◇婦人会主催

九月十日「お話の会」

桜京分教会十時半から

(詳細 下段)

## ☆教務支庁からのお知らせ

「すきっと」サポーター募集

天理教色が極めて薄く、雑誌として好評いただいております「すきっと」を喫茶店・食堂・理髪店・美容室等で読み物としておきたい方は百店舗に限り無料で提供いたします。是非ご利用ください

## 婦人会だより

十日はお話を聞く会を開催いたします。講師は支部の先生から、現在支部長されていらっしゃる、す豊英分教会の栗原薫先生に十柱の神様から思う男女の徳分と題して講演をして頂きます  
会場は桜京分教会で、十時半からお話終了後、昼食をご用意頂いておりますので、ご婦人に限らずお越し下さい。

## 訃報

八月十九日南泰分教会二代会長故宮坂政男氏(宮坂政男)享年82歳がお出直しされました。  
氏は、東京教区史の編纂、武道館での万人青年会の演出、「扉ひらいて」の演出等の他、教外でも民生委員・保護士等を務められました  
葬儀は都南分教会で三百人余りの参列の中、執り行われました。  
ここに氏へ哀悼の意を表します。

拠点教会	3日号	10日号	17日号	24日号	時報手配り九月は 全て手配りです
日本橋	手配り	手配り	手配り	手配り	
本 荏	手配り	手配り	手配り	手配り	
都 南	手配り	手配り	手配り	手配り	
三ツ木	手配り	手配り	手配り	手配り	
水豊田	手配り	手配り	手配り	手配り	

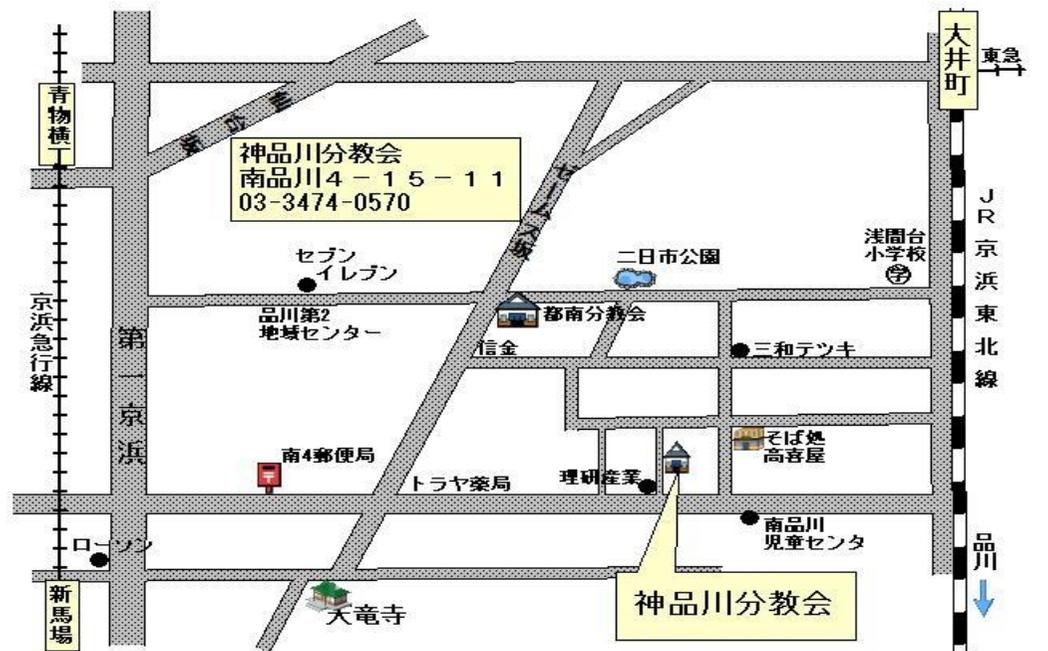
# 品川支部例会

## 平成29年9月30日 (土) 11時開始

### 場所 神品川分教会

### 内容 座りづとめ よろづよ八首 九下目 東京教区、支部連絡事項 当該浅田教会長挨拶 昼食の用意頂いてます

### \*各教会の方のほかどなたでも (白足袋ハッピー着用)



## 教会紹介

### 日倉分教会元へ日



日倉分教会の始まりは、池戸トミの入信が始まりである。明治二十年五月に、池戸崑八と結婚し、翌年に子供を授かったが、産後の肥立ちが悪く、家でプラブラしている処を、日本橋大教会初代会長中臺勘藏に助けられて、入信した。

付き合ひ程度の信仰ではあつたが、ある事情で勇み立ち、自宅には神様を祀り集談所となつた。そんな中、明治四十三年に夫、崑八の出直しで心を切り替え、布教に専念し、大正十二年五月に東京市芝区白金三光町に、日誠宣教所を設立した。しかし、出来たばかりの教会を関東大震災で焼失し、昭和七年に東京府豊多摩群渋谷に二十ハ坪の土地を借りて移転をした。この地でトミは布教をしていたのだが、昭和十九年九月で出直し

してしまい、教会も二十年五月に焼失してしまつた。この日誠分教会の事情を始め、大教会では戦後の復興を急いでいた。ここに親神様の深い親心であらう、倉橋ふさが引き寄せられていて、教会復興に立ち上がったのである。

倉橋ふさは、東京杉並に誕れ明治三十八年に、嘉市と結婚をして、桐ヶ谷に住んでいた。家は酒屋と質屋を営んでいた。嘉市が昭和八年に出直しをした。又この頃、長女が結婚破棄の事情が重なりノイロウゼで悩んでいた。ところが、昭和十四年に豊広宣教所がある事情から、天理教をやめてしまったので、ふさは大教会の直属信者扱いとなった。

しかしながら、これも戦争で焼けたされて、昭和二十五年、小さいながらも自宅の復興で、集談所を開設した。この倉橋家の初代ふさのトミソードが残っているので照会しよう。

大教会の神殿建築の折り、資金繰りの大変な時に、当時の千円が集まるとそれを持って大教会に参拝に行つてお供えをするので、オオ、千両箱が来てくれた」といつ喜んで頂けるのが嬉しくて、ちよちよと運んだそうである。

こうして信仰を続けていたが、教会の復興を願つていた大教会長が、日誠分教会を是非持つて貰いたいの願いに答えて、昭和三十一年十一月に、品川区西大崎一丁目日倉分教会として復興したのである。しかし昭和三十四年四月二十四年ふさ会長が出直されて、後継者が決まつかない事から又事情教会になりかけたのであるが、八重子が子供の事情や姉の身上等で悩んでいた折り、柏木庫治先生から因縁の悟り方を教えられ、教会を継ぐ決心をした。達志が会長になるのが順序であるが、復興を急ぐので、まづ資格を持つている八重子が会長になり、神殿教職舎の普請をすることになった。



これが昭和三十八年三月であり、翌三十九年四月に達志が四代会長に就任した。本人は教会の土台作りとして、地域活動に重点を置き、町会長として地元の発展に協力していたが、昭和の終わりの頃から身上となり、入院が始まり、平成三年に介護施設に入院した。後継者が身上の上で動けなくなり、又々事情教会となつてしまつた。その節、大教会として百二十年祭に向けて、事情教会を一つでも減らすべく、大教会在住者に次々と事情教会へ派遣をして行く中、役員会の方針により、斉藤衛彦を教会長として、事情教会の整理をしたのである。是が年祭の前年平成十六年八月である。以降現在にいたる事情教会の代々の治め方である。